

## 「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【5月17日放送内容】

DJ：先月から始まりました新コーナー「地域と学校の新しいカンケイ ～WIN WIN より Happy Happy～」の。前回の放送では、尼崎市がめざしている「地域と学校の新しいカンケイ」がどのようなものか、教えていただきました。そして、地域の方が子どもたちのために、いろいろな支援で学びや育ちを支えてくださっていることを知りました。今回は、「子どもたちの学びや育ちを支える活動」について、尼崎市の小学校では、どのようなことが行われているのか、尼崎市教育委員会の社会教育課 地域学校連携推進担当の増田吉英（ますだ よしひで）さんにお話をお伺いしていきます。増田さん、よろしくをお願いします。

増田：よろしくをお願いします。

DJ：では、まずはじめに「子どもたちの学びや育ちを支える活動」には、どんなものがあるのでしょうか。

増田：はい。子どもたちの学びや育ちを支える活動といってもいろいろな種類の活動があります。主なものとしては、4つあります。1つ目は「授業の支援」です。文字通り、授業中に先生の補助や、時には地域の方が専門の人を呼んできたり、あるいは、ご自身が先生になったりして、学校の授業に直接関わる支援です。2つ目は「学校環境を良くする支援」です。これは校内美化や、今でしたら感染予防対策など、子どもたちのために学校環境を良いものにする支援です。3つ目は「子どもの安全対策支援」です。主には登下校の見守り活動で、みなさんも見かけられたことがあるのではないのでしょうか。4つ目は、「地域主催による体験・交流イベント」で、地域の運動会や神社の祭り、盆踊りなどがあります。今日は、学校で行われる支援を中心にをご紹介します。

DJ：そんなにたくさんの種類があるんですね。それでは、どのような活動をされているのか、くわしくご紹介いただきたいと思います。

増田：まず、授業支援ですが、ある学校では、文化財収蔵庫(現 歴史博物館)の学芸員の方を講師に招き、小学校1年生の授業で「綿つむぎ体験」を行いました。国語の教科書に「たぬきの糸車」というお話があり、糸車がどんなものか、どうやって糸をつむぐのかを子どもたちに体験させる授業でした。地域の方が子どもに寄り添い、綿の種とりや糸車を使って綿をつむげる体験が、安全に楽しくできるようサポートしてくださいました。

DJ：そうなんですね。子どもたちにとっては、本物の糸車を見るのは初めてなのではないのでしょうか。綿つむぎは、貴重な体験ですよ。

増田：はい。教科書に出てくる糸車を実際に見て、みんな目を輝かせていました。本当に学校だけではできない貴重な体験ができました。また、子どもたちに「綿つむぎ体験」をしてもらいたいと、地域の方々が、近くの公園でその年の5月に種まきをして約半年間かけて大切に育ててくださったものなんですよ。

DJ：え～っ！地域の方が綿を栽培してくださっているんですか。地域の方々の子どもたちや学校に対する

思いが本当に熱いですね。

増田：はい。地域の方は、子どもたちの学習に少しでも力になればと考えてくださっています。何より、子どもたちの驚き、喜ぶ姿を幸せに感じてくださっています。

D J：子どもたちをサポートすることについて、地域の方はどのようにおっしゃっていますか。

増田：地域の方は、「ボランティアに参加するため、久しぶりに学校に来ました。子どもたちの様子もわからないので不安もありました。でも、『ここはどうしたらいいの』と聞いてくれる子どもたちの姿を見て、とってもかわいいなと思いました。教えてあげると『おばちゃんありがとう』と笑顔で言ってもらえ、とっても嬉しかったです。子どもたちに喜んでもらえて元気をもらえました。私たちができることがあればいつでも来ますよ。」とおっしゃっていたのを今でも覚えています。

D J：とってもいいお話ですね。これこそ前回、増田さんがおっしゃっていた「Happy Happy」のコンセプトですね。その他にも印象に残った授業の支援はありますか。

増田：はい。「パラスポーツ体験」があります。

D J：「パラスポーツ」といえば、障害のある方が行うスポーツですよ。小学生はそんな体験もされているんですね。授業で子どもたちは、どんなことを学んだのですか。

増田：5年生の総合的な学習の時間に、パラスポーツの車椅子バスケットボールの選手を講師としてお招きすることができました。選手から直接、パラスポーツの素晴らしさをお話していただきました。お話を聞いた後、実際に車椅子を使ったバスケットボールの体験をしました。選手の「障害を持っていても夢を持つことができるし、夢をかなえて、世の中の人に夢や希望を与えたいと思っています。」という言葉は、子どもたちに夢に挑戦する勇気と希望を与えたと思います。

D J：パラスポーツで活躍する選手のお話や体験を通して、子どもたちはすばらしい学習になったでしょうね。さて、次に地域の方が学校環境を良くする支援を行っているということですが、どのようなことをされていていらっしゃるのでしょうか。

増田：学校の花壇の整備があります。学校の敷地内には花壇がたくさんありますが、学校だけでは花を植えきれず、雑草が生い茂ったりしている状況がありました。きれいなお花で囲まれた環境で子どもたちが伸び伸びと育てほしいという要望に答えて、地域の方でお花を育てることが得意な方がボランティアで来ていただきました。そして、空いている花壇や学校の周りにお花を植えてくださいました。

D J：お花がいっぱい咲いている学校って本当に癒されますよね。学校に入ったときに綺麗なお花に出迎えられると気持ちがいいですし、子どもたちも心豊かになりますよね。地域の方に愛されている学校なんですね。

増田：そうなんです。地域の方は自分たちが住む町の学校を大切にされています。地域の方は、学校を支援して子どもたちに喜んでもらえると Happy な気持ちになれるそうです。また、学校内でボランティア活動をするうちに、同じ趣味の友だちができ、花の植え方を教え合ったり、自分の持っている球根

や苗を交換したりすることもあると聞いています。

D J：学校を支援することで地域の方が知り合いになると、地域でのつながりも広がっていくわけですね。

増田：はい。学校、子どもたち、地域の方すべてがHappy Happyですよ。それから、新型コロナウイルス感染予防対策のための校内の消毒作業の応援についてご紹介しますね。

D J：はい。新型コロナウイルス感染防止対策として、先生方が授業の空き時間に消毒作業をされていたんですよ。本当に大変ですよ。

増田：そうなんです。先生や各学校に配置されているスクールサポートスタッフの方が、校舎内の消毒を毎日行っていました。学校は広いので消毒も大変なんです。先生方が少しでも子どもの教育に集中できる時間ができるようにと、地域の方が消毒作業をお手伝いしてくださいました。

D J：今のコロナ禍だからこそその活動ですよ。地域の方も学校と一緒に地域の子どもの安全を守ってくださっているんですね。他に、子どもの安全対策に関する活動があるというお話でしたが、どのような活動がありますか。

増田：はい。子どもの登下校時の安全対策の支援があります。先生方は、子どもたちの登下校をとて心配しています。特に新1年生は、入学式から給食が始まるまでの2週間は、3時間目が終わったら集団下校をしています。地区別に子どもたちを集め、先生方が自宅の途中まで引率しています。しかし、別れた後、途中で迷子になったり、寄り道をしたりする子がいます。自宅にスムーズに帰れない子どもにとって、保護者のみなさんも大変心配されていました。そこで、PTAや地域のボランティアの方が、先生と一緒に家の近くまで送って行ったり、慣れてくる頃には付き添うのではなく、迷いそうな場所に立って見守ったりする活動をしてくださっています。

D J：確かに幼稚園や保育所では保護者の方がお迎えに来られていますよね。1年生になると急に1人で家に帰らなくてはならないのは、子どもは不安ですし保護者の方もやはり心配ですよ。そうやって、家の近くまで地域の方に送っていただけるのはとても安心ですね。朝、交差点や道路の角に黄色い旗を持って立っている人を見かけますが、安全対策の活動なんですよ。

増田：そうなんです。多くの学校で、PTAや地域の方が登下校中の危険なポイントに立って、子どもたちが安全に登校できるよう優しく声かけをしながら見守り活動をしています。地域の企業の方が、週に何回か仕事が始まる前に交差点に立ち、子どもたちを見守ってくださっている学校もあります。

D J：ほんとにいろいろな活動があるんですね。尼崎市の学校で行われている様々な活動のことが、よく分かりました。さて、今回は令和2年度に文部科学大臣表彰を受けられた浜小学校の活動について、浜小学校の地域学校協働活動推進員の島田さんをお招きして、増田さんと私との3人で番組を進めていきたいと思います。増田さん、ありがとうございました。

増田：ありがとうございました。

D J：それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。